

## フィールドパートナー 自己紹介カード

「フィールドパートナー」とは フィールドワークパートナーの略称。

水俣・芦北地域のフィールドで、史実に基づいて解説し、来訪者とともに考察します。

社会課題を自由に考えることを妨げない案内を心がけています。 since2011

名 前/<sup>もりやま</sup>森山 <sup>あやこ</sup>亜矢子

一般社団法人環不知火プランニング 代表

出 身/長崎県長崎市（東京経由）

特 技/神道夢想流杖道（全剣連杖道六段）



### なぜフィールドパートナーをされているのでしょうか

水俣のことを知るほど、出身地長崎の出来事や課題について深く知ることができて、故郷に想いが飛ぶようになりました。水俣を通じて、自分に何ができるか、上から目線ではなくニュートラルな思考ができるようになりました。自身の生活や社会課題が、水俣とリンクすることができれば、自ずと若い人も年配者も世代や立場を超えて、思いやりの社会変革ができるのではないかと考えています。そのために現地で生の情報を見聞きして、フラットで自由な発想を得て、自分の生きる指針となる力をつけてほしいと願っています。

### あなたにとって、水俣の魅力はなんですか

水源から海まで一つの行政区（水俣市）。本来は、自然豊かな環境を保全しやすい地域です。水俣には、悲しみや怒りの歴史がありますが、今後は、住民が意思と努力する心を持ち、未来に向けた地域づくりを行えば、小さくても質の高い地域となれる高いポテンシャルを持っていると考えます。推進力が高く、魅力ある人が多いのが、他にはない水俣の大きな魅力であると移住者である私は信じています。

### 子どもたちや若者たちに何を伝えたいと思って案内していますか

#### 若い人たちは、水俣から何を学んでほしいと思いますか

「何を伝えたいか」と言うよりも「ともに探求する仲間になってほしい」と思い、案内をしています。水俣のことを知り、それをきっかけに自分と居住地域を結びつけることは、重要なことです。「暗記する」ではなく「知る」。そこには自分の心にあるものへの「気づき」も含まれます。

「気づき」によって、「その先を自分で考える楽しみ」が生まれます。まずは、「自分の幸せのため」のきっかけを水俣で、自由な心で見つけてほしいと願います。